

## 令和4年度 事業報告

### 令和4年度 社会福祉法人天寿会 事業執行経過報告

新型コロナウイルス感染症が法人内5事業所でクラスター発生するなか、職場環境の悪化による退職者の増加、利用者サービスの低下、虐待事故の発生、新規利用者受入れの停滞による収入減少など、近年にない危機的状況となった1年でした。

#### 【1】 重点項目への取り組み評価

##### ・経営の安定

新型コロナウイルス感染症発生により各種感染予防具は予想以上の使用量となり、経済的にも大きな負担となりました。そのような中で、国や道からの各種補助金は出来る限り利用するとともに感染予防具（マスク・プラスチックグローブ・フェイスガード・予防衣など）が不足することのないように努めました。

各事業所の利用率からみると、そよ風の里の利用率が新入居者を抑制した影響で下半期も低水準のままで経過し、大きな損失となりました。寿幸園は譲渡を受けて最初の1年となりましたが利用率と人件費比率のバランスが悪く、予定していた本部からの借入金返済ができませんでした。

支出では、光熱水費をはじめ諸物価の高騰により大きな増加となりました。また給食委託業者や紙オムツ業者からは相次いで値上げが要請されるなか、給食についてはプロポーザルによる業者選定を行い最小限の値上げ幅に抑えました。紙オムツについても次回入札までは値上げしない旨、対応しました。

##### ・サービスの向上

療護部の大規模修繕は、令和4年度の補正予算での申請が採択されず令和5年度の申請結果を待つ状況が続いています。そのような中、療護部において利用者への虐待事故が発生し、胆振総合振興局から緊急監査を受けています。3月には改善勧告が出され改善案を提出しています。また、そよ風の里をはじめ慢性的な人員不足により基本的な介護サービスが一時的に提供できない状態が複数事業所で起きるなど、厳しい状況となりました。デイサービスでは、9月に発生した転倒による骨折事故において、家族との示談に5カ月を要しました。

##### ・地域とのつながり

町内会をはじめ地域活動も停滞が続くなか、地域とのつながりも同様に希薄な1年となりましたが、町からの委託事業である介護予防事業「すこやかサロン」は8月より再開しました。時間短縮や内容を一部変更しての開催で、2年ぶりであったため最初は10名未満の参加人数でしたが、少しずつではありますが再度地域住民に浸透を図っていきます。

12月には昨年度に引き続き、虎杖小学校の2年生を対象に「感染防止教室」を開催しています。

##### ・人材の確保と育成

深刻な人員不足に対して、ハローワークのみならず人材紹介会社、人材派遣会社を利用しての補充を図りましたが、各事業所とも慢性的な不足状況が続きました。退職原因の一つとしては職場環境、特に職場内での人間関係による肉体的・精神的ストレスに対して適切な事業所管理者による介入が不足していたことが挙げられます。パワハラ・セクハラといったハラスメント事案はありませんでしたが「風通しの良い」職場環境への取り組みは不十分だったと言わざるを得ません。

人材確保については、外国人雇用への取り組みがスタートしました。一つは、前年度延期になった中国人留

学生への支援であり、2名の中国人が天寿会の奨学金支援を受けて札幌市内の西野学園に入学となりました。もう一つは特定技能外国人雇用であり、インドネシア人3名の受入れを決定しました。諸手続きを経て今夏には来日予定です。

人材育成では、法人の介護福祉士実務者研修通信科終了者6名が介護福祉士試験に合格しました。

#### ・新型コロナウイルス感染防止

利用者及び職員に対し、4回から5回のワクチン接種を行いました。法人内6事業所において7回の感染が発生し、うち6回がクラスターとなりました。発生都度、苫小牧保健所に連絡し、その指示の下拡大防止に努めました。重篤な容態となるケースは少なかったものの残念ながら療護部で1名、特養部で1名の利用者がお亡くなりになりました。発生時にはクラスターの場合は終息まで概ね1カ月を要しましたが、いずれも他事業所に広がることはなく当該事業所のみになりました。また、クラスター発生時にはホームページにおいて随時発生状況について報告しました。

日常においては施設内への立ち入りや居室での面会は原則禁止ですが、タブレットを利用したウェブ面会や面会室を設定しての面会を実施し、制限を設けつつも御家族が状況確認できるよう、双方が顔を合わせることができるよう配慮いたしました。

#### 感染発生状況

- ① いたどり 5/23 発生、6/25 終息 利用者11名、職員5名が感染
- ② 療護部 7/20 発生、8/10 終息 利用者20名、職員14名が感染
- ③ 特養部 9/2 発生、10/15 終息 利用者26名、職員13名が感染
- ④ 寿幸園 1回目 10/1 発生、10/27 終息 利用者4名、職員3名が感染
- ⑤ 寿幸園 2回目 11/28 発生、12/26 終息 利用者26名、職員15名が感染
- ⑥ 更生部 12/26 発生、1/12 終息 利用者1名、職員3名が感染
- ⑦ そよ風の里 12/26 発生、1/30 終息 利用者18名、職員5名が感染

## 令和4年度 更生部 事業報告書【概要】

総 評	<p>入所部門は稼働率 96.0%で年間平均利用者数は 38.6 名と前年度を若干上回った。入院延人数が 234 人と前年より減少したことが利用率微増に繋がる。通所部門は前年度より継続したコロナ禍の利用控えと 6 月末での通所担当者 2 名の退職も有り稼働率 37.6%、年間平均利用者数も 10.6 人と前年同様低迷した。通所部門は介護保険制度の共生型サービスの競合も低迷の一因と思われ、事業存続に向けては、新規入居受入れに向けた営業と体制整備が急務である。入所部門でも年度当初より介護職員 2 名欠員のなか新規入所希望の相談は近隣医療機関より複数あったが、受入調整に時間を要した。コロナワクチン接種は希望された利用者及び職員への 5 回目の接種を終えた。前年度より継続した更生部としての入所部門・通所部門の一体的な事業運営に向けた「介護業務ミックス」に関しては、コロナ感染症対策を講じての職員専任化での対応もあり、協働的支援は入浴と一部レク実施に限定され次年度以降も継続課題となっている。職員採用関係では、退職者の補充も入職希望者が少なく採用には繋がらず停滞しており、特に介護職員の確保が早期の課題となっている。ウィズコロナ状況下でのサービス提供にて、特に在宅より通われる通所利用者に関しては、より一層の感染対策の継続徹底を要しており、今後の継続課題となっている。生活介護での日中活動では、作業訓練は 1 名体制での限定的なサービス種目の提供に留まり、新たな日中活動の提案には未だ至っておらず事業所内での検討とサービス体制の確立が急務となっている。</p>	
利 用 者 サ ー ビ ス	利用者状況	<p>入所部門は夜間帯のサービス提供にあたる「施設入所支援」は R4 年度の年間延人数 14,015 人、稼働率 96.0%、年間利用平均数 38.6 名であった。入院延人数は 234 人で利用率向上には今後も課題が残る結果となった。日中活動支援の「生活介護」では在宅・地域からの「通所事業」は（R4 年度年間延人数 2,750 人、稼働率 36.8%、年間での平均利用人数は 10.6 人）と前年度実績を下回り低迷する結果となった。</p>
	相談援助	<p>毎月定例となっている支援会議の開催、支援計画書の作成対応を行う。事業所内感染対策に伴う面会制限以外は、前年度と同様に特設面会室での面会対応に加えて、web 面会の受付対応を実施。在宅 GH 利用者や医療機関からの入所利用の相談があったが、介護職員の欠員に伴う介護受入れ態勢の整備不足も影響し利用率停滞に繋がった。通所部門でも同様であり、コロナ禍での影響も加わり前年度利用延べ人数が 100 名程減少、新規利用控えも影響した。</p>
	介護支援	<p>入所・通所部門での一体的な事業運営に向けた「介護業務ミックス」の試行を行うも、入所・通所側職員の双方での課題も多く、入浴や一部レクのみ限定した実施に留まった。職員欠員に伴い入浴日以外は、最小限の介護体制に利用者への離床制限等の介護サービスの低下に繋がりが今後の課題となっている。</p>
	健康管理	<p>年度当初より、介護職員の同居家族のコロナ陽性や農耕接触者該当に伴う自宅待機等にて、勤務変更を余儀なくされ、勤務ローテーションの調整に苦慮した。昨年末に入所利用者 1 名のコロナ陽性、所属職員 3 名の要請により感染対策を講じてのサービス提供を行った。個室の住環境に伴い幸いクラスター発生には至らなかったが、引き続き感染対策の徹底と継続が求められる。</p>
	機能訓練 (日中活動 を含)	<p>入所、通所部門で訓練提供時間を分散させて実施、訓練室の利用時間も重複しないよう工夫してサービス提供を行った。特に通所利用者の対応においては、より一層の徹底した時間割にて訓練作業を行い感染対策に努め実施した。日中活動においては、以前より新たな日中活動の提案が求められているが、感染対策の継続や介護職員欠員に伴う業務協力等により架台検討には至らなかった。活動内容の検討に向けては、かご編み等が中心となっており、事業所としての日中活動の検討が継続した課題となっている。</p>
	給 食	<p>調理委託先と協働の法人企画食提供は概ね好評、感染対策に伴うディスポ食器の活用による経費増大に繋がった。</p>
	庶務（請求 業務等）	<p>隣接事業所及び法人内事業所と合同での一括請求を継続、滞等なく実施した。毎月開催故防止委員会や虐待防止・身体拘束廃止委員会、感染防止対策委員会を障がい合同で実施した。</p>
	行事クラブ	<p>コロナ禍にて法人全体行事での「秋の祭典」は全体では実施できず、各事業所にて実施した。感染対策を講じての行事企画であったが、利用者からは概ね好評であった。生花クラブは月 2 回定例稽古は感染対策に伴い休止や延期が多かった。</p>
	研修計画等	<p>前年度同様、外部研修への参加は見合わせ、法人・事業所内研修を中心に実施。</p>
	施設管理等	<p>本部棟倉庫より 10 年が経過しナースコール対応の PHS 等に不具合有り適宜修理対応する。</p>

令和4年度 療護部（短期舎）事業報告書【概要】

<p>総 評</p>	<p>年間稼働率は90%、年平均利用者数は45.6名であり、入院延人数は503名と前年度を大きく下回り利用率が低迷した。6月の介護職員による利用者への暴力行為が身体的虐待と認定され、年度末には胆振総合振興局より文書での勧告報告と改善報告書の提出が課された。勧告内容では、利用者の人権に配慮し、権利擁護の徹底が示され、虐待再発防止に向けては、管理者主導による一元的な管理に向けた虐待防止研修の開催と事業所内に留まらず、法人内でのチェック体制の強化が示された。事業所7月には事業所内にてコロナクラスターが発生、入所利用者20名、職員14名が陽性となり、法人内事業所からの協力職員の派遣を受け感染対策下でのサービス提供を継続したが、陽性利用者1名が搬送先で死去する残念な結果となった。多床室での感染拡大を食い止められず、結果としては感染対策が失敗となり、今後のBCP作成に向けて大きな課題となった。年度当初の職員2名の欠員に加え年末に2名の退職者もあり、限られた勤務ローテーションにおいて、入浴日以外の介護サービスの低下が顕著となり、介護職員の確保が喫急な課題となっている。</p>	
<p>利 用 者 サ ー ビ ス</p>	<p>利用者状況</p>	<p>年間延利用者数は16,433人、年稼働率は90.0%、年間平均利用者数は45.6人で入院延人数は503名で前年度実績の延利用者数17,603人、年稼働率は96.5%、年間平均利用者数は47.8人、入院延人数は247名を大きく下回り業績低迷に至った。経管栄養等の重度加算算定者も定数を満たしており加算算定を継続した。</p>
<p>相談援助</p>	<p>定例開催のケース会議及び支援計画書の立案対応を実施。感染対策に伴う面会制限以外で特別面会室での対応と面会対応に加えてweb面会の受付対応を実施した。隣接する更生部と同様に町内GH等の在宅利用者や近隣医療機関からの相談はあるものの、介護職員欠員の体制に伴い新入居受入れが低迷した。重度化に伴う医療ニーズが入所希望者も多く、現実的な待機者増には至っておらず新規利用者の確保が更生部同様の喫急の課題となっている。</p>	
<p>介護支援</p>	<p>介護職員の欠員に伴い、利用者の長期的入院に伴う実人数が45名程度で推移している状況下で下半期においては、夜勤者2名体制にて対応している。勤務ローテーションが入浴日に手厚くする一方で入浴日以外は少数体制にて稼働しており、利用者の離床制限等のサービス低下に繋がっている現状もあり、介護職員の確保が喫急の課題となっている。不適切ケアの撲滅や接遇面の向上に向けては、職員相互のチェック体制と上長や職場長へ相談しやすい風通しの良い職場環境への改善に向けた職員教育の徹底と研修実施の継続を要している。</p>	
<p>健康管理</p>	<p>事業所内でのコロナクラスターを経験し、多床室での感染対策と拡大防止に向けたBCP作成が急務となっている。職員自身のコロナ陽性や濃厚接触者概要に伴う、欠勤等も多く勤務体制の維持に苦慮し、相談職や訓練員等の多職種も含めた受診対応が継続しており、人材確保が継続した課題となっている。</p>	
<p>機能訓練 (日中活動 を含)</p>	<p>訓練室の活用を最小限に留め、ベッドサイドや廊下等での訓練を中心に実施した。作業訓練では訓練員1名体制にて作業種目もかご編みとPC作業訓練が中心であり、日中活動として隣接の更生部と同様に新たなサービスの提案が求められている。今後は利用者のニーズ把握も踏まえての検討を要している。</p>	
<p>給食</p>	<p>調理委託先と協働での「法人企画食」の提供は概ね好評であり、引き続き、利用者の要望や意向も踏まえた食事提供の継続が求められている。感染対策下でディスポ食器の多用が経費増大に繋がっており、使用方法の検討は継続課題となっている。栄養マネジメント業務を続け、栄養管理を継続している。</p>	
<p>庶務(請求 業務等)</p>	<p>隣接事業所の更生部及び法人内事業所(しおさい)と合同での一括請求を継続。遅滞等なく実施した。毎月定例での事故防止委員会や虐待防止・身体拘束廃止委員会、感染防止対策委員会を障がい合同で実施した。</p>	
<p>行事クラブ</p>	<p>コロナ禍にて法人全体行事での「秋の祭典」は全体では実施できず、各事業所にて実施した。感染対策を講じての行事企画であったが、利用者からは概ね好評であった。生花クラブは月2回定例稽古を個別に継続したが、下半期においては、感染対策にて休止や延期が多かった。</p>	
<p>研修計画等</p>	<p>前年度同様、外部研修への参加は見合わせ、法人・事業所内研修を中心に実施。勧告に基づく虐待防止研修は年2回以上の継続開催を要し、重点的な実施を要している。</p>	
<p>施設管理等</p>	<p>ナースコールやボイラーを中心に建物や設備面の老朽化が顕著であり、適宜の修理対応にも限界有り早期の対応を要している。</p>	

令和4年度 特養部（短期入所含む）事業報告書【概要】

<p>総括</p>	<p>令和4年度の入所延べ人数は 13,148 人で利用率は 94.8%となった。前年度より 145 人、1%減となった。下期はコロナクラスターの影響もあり感染後に体調が戻らず退居等もあり、立て直すのに時間を要した。入院者は前年に比べ多く 11 名の退所と多く退所後の空床期間比較的あけずに受入れを行った。</p> <p>短期入所では年間利用率が 1,363 名 62.2%となった。新型コロナウイルスによるクラスターも減少要因の一因だが、可能な限り新規顧客の受け入れし町内で限られた短期事業所としての認識を踏まえ、利用者確保とリピーターの増加に向けた営業体制を整え利用率の向上を目指す。</p> <p>全体では、昨年よりは骨折などの重大事故は減少したものの、7月には残念な事であるが自殺された利用者があり、重大事故として未然に防ぐことが出来ず、多床室での限界や対応や関りに事業所として課題を残した。職員関係では退職者は看護師 1 名。介護員では男性職員の育児休業取得、そよ風の里への 1 名異動となりデイサービスからの 1 名異動の補充はで最低限のサービスは保たれた。</p> <p>今年度は、昨年以上にコロナ対策を要しての 1 年であったが、コロナクラスター発生により、より家族面会や外出及び外泊の自粛、行事の中止と 1 年を通じて、制約された環境下でのサービス支援となった。季節性インフルエンザ等の罹患者はいなかったが、全体を通して新型コロナ感染・濃厚接触者による職員の休暇が前年より格段に多くみられ調整欠員はあったものダメージは多い。</p> <p>引き続き通常の施設運営に戻しつつ、コロナ感染対策の徹底を要おこなう。</p>	
<p>利用者等</p>	<p>利用状況</p>	<p>今年度の新入所は管内中心に 9 名、退所は入院が伴い 11 名であった。短期入所は、コロナ禍ではあったができるだけ受け入れた。</p> <p>相談</p> <p>今年度もコロナ禍での染対策を講じて面会を実施、生活状況の説明を行った。Web 面会。大半は電話連絡による近況報告や手紙が中心となった。入退院の調整・新規入居退居調整を円滑に行う。ショートステイはコロナ禍ではあったができるだけ体制を整え受け入れを行ったが、勤務体制や多床室というハード面での受け入れや職員体制に課題が残る。介護職員減による他課受診介助、緊急受診の件数が増加し本来の業務に支障をきたした。</p> <p>介護</p> <p>入所では事故件数が昨年よりは多くなかったものの、自殺者が出たことは大きな問題となり行動把握や職員間での適切な介護方法の周知等に課題が残った。職員への教育や介護技術の向上、介助方法の周知等への取組みを要するも現実には整理できなかった。下期は長期休職者や移動もあり余裕が見られなかった。</p> <p>健康管理</p> <p>入所・短期利用者や職員のコロナ感染によりクラスターとなり全面的に支援を行った。インフルエンザは罹患者はなく経過、外部受診時は感染対策の徹底を図りながら可能な限り支援を行った。4年度は新型コロナウイルスワクチン接種実施し予防対策にあたった。今後も可能な限り感染対策を行いながらの健康管理の継続の実施を行う。</p> <p>訓練</p> <p>昨年までは、併設の友活の里との兼務となっていたが、本年度より特養部の機能訓練指導員専従となる。個別に訓練を実施し幅広く行い利用者の自立支援や意欲につながった。引き続き個別にあった訓練の継続した提供と時間の継続した検討を要する。</p> <p>給食</p> <p>例年同様、入所では栄養ケア計画に基づいた食事提供と栄養管理を実施できた。法人企画食の提供等、コロナ禍での制約された生活の中で、利用者からも好評であった。</p> <p>炊務</p> <p>コロナクラスターにより、給食の衛生管理、感染予防を徹底し行った。</p> <p>庶務</p> <p>ワイズマン導入により請求の確実性と効率化がはかられたが業務負担は多い。下半期は友活の里の機能訓練加算返還に作業にあたり、通常の業務が停滞した。</p> <p>行事クラブ</p> <p>コロナ禍でもあり施設内行事を中心に、特養部での新型コロナクラスターの影響もあり、外での行事はなく。室内行事も数回にとどまった。生花は継続して行われたが下期は余裕もなく未実施となる。今後はコロナ禍で行えなかった行事を見直し、企画実行に向けた必要がある。</p> <p>研修計画等</p> <p>本年度も外部研修の参加はほぼなく、法人及び事業所内での研修実施に留まった。職員体制に余力がないため、Web 研修の取り入れながら必要とされる研修も検討されるが思うような体制が組めず課題が残る。</p> <p>施設管理等</p> <p>大きな不備はないものの細かいところの老朽化があり、点検が行き届かず対策が必要と思われるが、利用者の安全・安心した生活ができるように努める。</p>

令和4年度 友活の里事業報告書【概要】

<p>総括</p>	<p>開設3年目となり、今年度の入居延べ人数は13,968人、年間利用率は95.7%となり昨年より151人、1.6%減となった。長期入院のケースが昨年より多く出入りが多かった。受け入れ調整を早めに行い新規入居者の意向を踏まえて空床期間ができるだけ無いように行った。重大事故は7件あり骨折事故で原因究明に至らないケースがあり課題が残った。</p> <p>開設以来、コロナ禍による家族面会や外出及び外泊の自粛を行っていたが、予約制面会を実施、ご家族様の体調管理のもと外泊・外出の実施できたことにより家族との交流を図ることができた。</p> <p>感染関係では入居者の新型コロナ感染はなかったが、職員のコロナ感染や濃厚接触が多く業務に影響を及ぼしたが、入居者への感染はなく感染対策の徹底した結果と評価する。季節性インフルエンザの罹患者はいなかった。全体を通し新型コロナウイルス感染を含め油断することなく引き続き感染対策の徹底を要する。今年度はじめに会計監査院により個別機能訓練加算の不正受給の指摘を受け7月に実地指導があり過去2年分の返還となる。返還に向け準備を進めるも令和2年度途中でシステムがワイズマンになったことにより作業は難航し進め方にも不備があったが、当初予定返還完了の時期はずれ込んだものの保険者・入居者への返還は3月初旬にすべて返還し、胆振総合振興局に書類を期日前に提出した。今後は慎重に加算の算定は行う事とする。</p>																				
<p>利用者等</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="183 734 335 831"> <p>利用状況</p> </td> <td data-bbox="335 734 1495 831"> <p>今年度出入りが多く入居14名、退居14名と昨年の倍以上となった。入居待機者の希望者確保に向けては、町内外への空床情報等の提供を行い、他病院などからの問い合わせも随時対応を行っている。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 831 335 974"> <p>相談</p> </td> <td data-bbox="335 831 1495 974"> <p>今年度もコロナ禍での感染対策を講じて面会を実施、生活状況の説明を行った。Web面会も引き続き実施した。大半は電話連絡による近況報告や手紙が中心となった。入退院の調整・新規入居退居調整を円滑に行う。下期は個別機能訓練加算返還の作業に追われ通常の業務にも支障をきたした。入居者の受診送迎も多く改善が必要。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 974 335 1218"> <p>介護</p> </td> <td data-bbox="335 974 1495 1218"> <p>退職者はいなかったものの法人内の他事業所の新型コロナクラスターにより応援、短期異動を行う。また、職員のコロナ感染や濃厚接触者が多く業務に支障をきたした。重大事故は7件発生しなかには検証をするも原因が特定されないものもあり課題が残った。今後は原因を明確にし早期発見早期対応に努めたい。また、ユニットケアの見直しや職員への教育や介護技術の向上、介助方法の周知等への取組みを要している。併設の特養部と同様に接客を含めた教育や介護技術の向上、介助方法の周知等への取組みを要している。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 1218 335 1361"> <p>健康管理</p> </td> <td data-bbox="335 1218 1495 1361"> <p>入居者は新型コロナ感染・インフルエンザ感染者はでなかったが職員のコロナ感染者や濃厚接触者が多数。外部受診時は感染対策の徹底を図りながら可能な限り支援を行った。4年度はも新型コロナウイルスワクチン接種を実施し予防対策にあたった。今後も可能な限り感染対策を行いながらの健康管理の継続の実施を行う。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 1361 335 1482"> <p>訓練</p> </td> <td data-bbox="335 1361 1495 1482"> <p>今年度より個別訓練機能訓練員が専従となくなり、パートによる個別機能訓練、集団体操の実施。昨年より個別による訓練は減少したものの個別に訓練を実施し幅広く行実施し利用者の自立支援や訓練意欲につながった。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 1482 335 1626"> <p>給食</p> </td> <td data-bbox="335 1482 1495 1626"> <p>例年同様、入居利用者に対して、栄養ケア計画に基づいた食事提供と栄養管理を実施できた。法人企画食の提供等、コロナ禍での制約された生活の中で、利用者からも好評であった。併設の特養部新型コロナクラスターにより配膳作業をできるだけ感染対策を実施し配膳した。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 1626 335 1724"> <p>庶務</p> </td> <td data-bbox="335 1626 1495 1724"> <p>下半期よりワイズマン導入により請求の確実性と効率化がはかられたが相談員の業務負担となり引き続き課題が残る。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 1724 335 1868"> <p>行事クラブ</p> </td> <td data-bbox="335 1724 1495 1868"> <p>今年度も全体での行事を企画実施とユニットごとに特色を出したレクの提供となった。コロナ禍での外出は近隣のみの実施となる。引き続き感染拡大状況等を踏まえたうえで外出行事等の企画実施をおこなう。活花クラブは2名が定例参加したが下期は休止。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 1868 335 1989"> <p>研修計画等</p> </td> <td data-bbox="335 1868 1495 1989"> <p>外部研修の参加はほとんどなく、法人及び事業所内での研修実施に留まった。職員体制に余力がないため、Web研修の取り入れながら必要とされる研修も検討されるが思うような体制が組めず職員教育も含め課題が残る。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 1989 335 2085"> <p>施設管理等</p> </td> <td data-bbox="335 1989 1495 2085"> <p>新築3年目であり大きな不備はないものの細かい不備が見られる。早期対応し入居者・職員がお互いに安全安楽に使用できる中間浴の整備が必要である。利用者及び職員の感染対策の継続を要する。</p> </td> </tr> </table>	<p>利用状況</p>	<p>今年度出入りが多く入居14名、退居14名と昨年の倍以上となった。入居待機者の希望者確保に向けては、町内外への空床情報等の提供を行い、他病院などからの問い合わせも随時対応を行っている。</p>	<p>相談</p>	<p>今年度もコロナ禍での感染対策を講じて面会を実施、生活状況の説明を行った。Web面会も引き続き実施した。大半は電話連絡による近況報告や手紙が中心となった。入退院の調整・新規入居退居調整を円滑に行う。下期は個別機能訓練加算返還の作業に追われ通常の業務にも支障をきたした。入居者の受診送迎も多く改善が必要。</p>	<p>介護</p>	<p>退職者はいなかったものの法人内の他事業所の新型コロナクラスターにより応援、短期異動を行う。また、職員のコロナ感染や濃厚接触者が多く業務に支障をきたした。重大事故は7件発生しなかには検証をするも原因が特定されないものもあり課題が残った。今後は原因を明確にし早期発見早期対応に努めたい。また、ユニットケアの見直しや職員への教育や介護技術の向上、介助方法の周知等への取組みを要している。併設の特養部と同様に接客を含めた教育や介護技術の向上、介助方法の周知等への取組みを要している。</p>	<p>健康管理</p>	<p>入居者は新型コロナ感染・インフルエンザ感染者はでなかったが職員のコロナ感染者や濃厚接触者が多数。外部受診時は感染対策の徹底を図りながら可能な限り支援を行った。4年度はも新型コロナウイルスワクチン接種を実施し予防対策にあたった。今後も可能な限り感染対策を行いながらの健康管理の継続の実施を行う。</p>	<p>訓練</p>	<p>今年度より個別訓練機能訓練員が専従となくなり、パートによる個別機能訓練、集団体操の実施。昨年より個別による訓練は減少したものの個別に訓練を実施し幅広く行実施し利用者の自立支援や訓練意欲につながった。</p>	<p>給食</p>	<p>例年同様、入居利用者に対して、栄養ケア計画に基づいた食事提供と栄養管理を実施できた。法人企画食の提供等、コロナ禍での制約された生活の中で、利用者からも好評であった。併設の特養部新型コロナクラスターにより配膳作業をできるだけ感染対策を実施し配膳した。</p>	<p>庶務</p>	<p>下半期よりワイズマン導入により請求の確実性と効率化がはかられたが相談員の業務負担となり引き続き課題が残る。</p>	<p>行事クラブ</p>	<p>今年度も全体での行事を企画実施とユニットごとに特色を出したレクの提供となった。コロナ禍での外出は近隣のみの実施となる。引き続き感染拡大状況等を踏まえたうえで外出行事等の企画実施をおこなう。活花クラブは2名が定例参加したが下期は休止。</p>	<p>研修計画等</p>	<p>外部研修の参加はほとんどなく、法人及び事業所内での研修実施に留まった。職員体制に余力がないため、Web研修の取り入れながら必要とされる研修も検討されるが思うような体制が組めず職員教育も含め課題が残る。</p>	<p>施設管理等</p>	<p>新築3年目であり大きな不備はないものの細かい不備が見られる。早期対応し入居者・職員がお互いに安全安楽に使用できる中間浴の整備が必要である。利用者及び職員の感染対策の継続を要する。</p>
<p>利用状況</p>	<p>今年度出入りが多く入居14名、退居14名と昨年の倍以上となった。入居待機者の希望者確保に向けては、町内外への空床情報等の提供を行い、他病院などからの問い合わせも随時対応を行っている。</p>																				
<p>相談</p>	<p>今年度もコロナ禍での感染対策を講じて面会を実施、生活状況の説明を行った。Web面会も引き続き実施した。大半は電話連絡による近況報告や手紙が中心となった。入退院の調整・新規入居退居調整を円滑に行う。下期は個別機能訓練加算返還の作業に追われ通常の業務にも支障をきたした。入居者の受診送迎も多く改善が必要。</p>																				
<p>介護</p>	<p>退職者はいなかったものの法人内の他事業所の新型コロナクラスターにより応援、短期異動を行う。また、職員のコロナ感染や濃厚接触者が多く業務に支障をきたした。重大事故は7件発生しなかには検証をするも原因が特定されないものもあり課題が残った。今後は原因を明確にし早期発見早期対応に努めたい。また、ユニットケアの見直しや職員への教育や介護技術の向上、介助方法の周知等への取組みを要している。併設の特養部と同様に接客を含めた教育や介護技術の向上、介助方法の周知等への取組みを要している。</p>																				
<p>健康管理</p>	<p>入居者は新型コロナ感染・インフルエンザ感染者はでなかったが職員のコロナ感染者や濃厚接触者が多数。外部受診時は感染対策の徹底を図りながら可能な限り支援を行った。4年度はも新型コロナウイルスワクチン接種を実施し予防対策にあたった。今後も可能な限り感染対策を行いながらの健康管理の継続の実施を行う。</p>																				
<p>訓練</p>	<p>今年度より個別訓練機能訓練員が専従となくなり、パートによる個別機能訓練、集団体操の実施。昨年より個別による訓練は減少したものの個別に訓練を実施し幅広く行実施し利用者の自立支援や訓練意欲につながった。</p>																				
<p>給食</p>	<p>例年同様、入居利用者に対して、栄養ケア計画に基づいた食事提供と栄養管理を実施できた。法人企画食の提供等、コロナ禍での制約された生活の中で、利用者からも好評であった。併設の特養部新型コロナクラスターにより配膳作業をできるだけ感染対策を実施し配膳した。</p>																				
<p>庶務</p>	<p>下半期よりワイズマン導入により請求の確実性と効率化がはかられたが相談員の業務負担となり引き続き課題が残る。</p>																				
<p>行事クラブ</p>	<p>今年度も全体での行事を企画実施とユニットごとに特色を出したレクの提供となった。コロナ禍での外出は近隣のみの実施となる。引き続き感染拡大状況等を踏まえたうえで外出行事等の企画実施をおこなう。活花クラブは2名が定例参加したが下期は休止。</p>																				
<p>研修計画等</p>	<p>外部研修の参加はほとんどなく、法人及び事業所内での研修実施に留まった。職員体制に余力がないため、Web研修の取り入れながら必要とされる研修も検討されるが思うような体制が組めず職員教育も含め課題が残る。</p>																				
<p>施設管理等</p>	<p>新築3年目であり大きな不備はないものの細かい不備が見られる。早期対応し入居者・職員がお互いに安全安楽に使用できる中間浴の整備が必要である。利用者及び職員の感染対策の継続を要する。</p>																				

令和4年度 老人デイ・居宅・支援センター事業報告書【概要】

<p>総括</p>	<p>老人デイは、コロナ感染症拡大の影響もあり、更に、浴室工事による休止日があったため、年間を通して利用者の減少が若干あった。介護度4-5の利用者が減少し、要支援1-2の利用者が増加傾向にあり、利用率の増加が必ずしも増収とはならない状況となった。</p> <p>老人デイは、在宅生活を支える介護保険サービスの中心の一つであり、『断らないデイサービス』を目指して実践してきたが、利用者・家族そして関係機関の評価も得られて、安定的な事業所運営が行われた一年であった。</p> <p>一日当たりの利用者は30.35名で、昨年度より1名の利用者減となった。総合事業の利用者は全体の22.3%となっている。コロナ禍でのデイサービスは感染対策の徹底と、3密の回避のプログラム工夫を実践してきたが利用者の理解も得られている。カラオケ等の参加型余暇の実施を望む声が多く出されている。</p> <p>居宅介護支援は、受任件数に変動はないが、地域のあるケアマネ事業所として認知されている。在宅介護支援センター等の委託運営事業は予定どおりの実施となった。コロナ禍であり在介取扱件数・85歳時訪問共に減少している。地域民生委員との懇談会を1回実施し情報の共有化と信頼関係の構築を図ってきた。</p>	
<p>利用者サービス等</p>	<p>利用状況</p>	<p>老人デイの一日あたり平均利用者は30名であり、その内介護予防対象者は22.3%となっている。登録者の利用率は79.79%となっている。ケアプランの作成数は、述べ745件で月平均62.1件となっている。予防介護プランは月平均2.7件となっている。在宅介護支援センターの85歳時訪問件数は、年間16件となっている。</p>
<p>健康管理</p>		<p>老人デイ利用者の殆どが内服中であり、内服薬の確認、血圧等バイタルチェックを実施し、健康管理に努めてきた。高齢者が多く、体調の管理に努めてきた。転倒事故は2件発生し、1件は骨折となり長期入院となった。年間を通して、コロナウイルス感染防止対策を実施し、感染防止に努めたが、職員に数名の感染者が出現した。クラスターに至ることはなかった。</p>
<p>訓練</p>		<p>老人デイでは要支援・要介護共に、個別の機能訓練を実施してきた。介護予防として運動器機能向上を選択し、個別訓練を強化してきた。機能訓練ニーズは高く、訓練士を中心に全スタッフの協力で適切な機能訓練を実施し、概ね利用者のニーズに答えている。総合事業については、従来の訓練プログラムを実施してきた。</p>
<p>給食</p>		<p>併設の管理栄養士が、直接利用者の食事に対する希望等を聞き取りながらニーズに応じてきた。利用者の中には、サービス受給中の食事が大きなウェイトを占めているものもあり、健康管理の上からも、食の大切さを自覚しながら給食提供を実施してきた。</p>
<p>行事・クラブ活動</p>		<p>法人全体の行事は、実施されなかった。単独行事として誕生会、野外レク。忘年会餅つきを実施した。コロナ禍での行事については、マンネリになりやすく今後も工夫が必要である。</p>
<p>事務管理</p>	<p>事務</p>	<p>少数スタッフで効率の良い物品管理、請求事務等を行うため、担当部署に物品管理者を配置し効率化を図っている。介護保険請求については、特養部との共同作業を行ってきた。</p>
<p>施設整備</p>		<p>建物・備品の保守管理を業者と連携して実施してきた。コロナ対策として、パーティションの設置や空気清浄機の追加購入等を行った。</p>
<p>研修</p>		<p>事業所内研修は、デイ職員として必要な基本的知識・技術の関する研修を実施し、法人として実施している内部研修等に参加した。ケアマネについては、ケアマネ連協研修会等の外部研修が中止となった。主任ケアマネ研修を受講した。</p>
<p>その他</p>	<p>町内の通所介護事業所は土曜日の営業がないため、引き続き利用希望者が増加傾向にある。3月末でデイケア1ヶ所が閉鎖となったため、利用者が更に増える可能性があり、受け入れ体制の強化を図るとともに、サービスの低下とならない範囲で効率化にも配慮していく。アフターコロナの視点をもちながら、感染対策の徹底と柔軟な対応が必要である。</p> <p>職員の確保と資質の向上を目指す。法人の基本方針であるパワハラのない働きやすい職場環境を構築していくことが必要である。利用者サービスの向上のためには、サービス内容の検討を常に行い、利用者ニーズに応じていくことが必要である。居宅については数値目標を設定して利用者の確保に努め、地域の機関との連携を目指していくことが必要である。</p>	

## 令和4年度グループホーム いたどり事業報告（概要）

概 要	<p>4年度の上半期は、5月後半から6月後半までの約1ヶ月間コロナウィルス感染者が発生しクラスターに発展した事が事業所内での最大の出来事であった。利用者の方でも感染から入院に至るケースがあり、その中でコロナ感染症は完治しても入院による認知症の進行で飲食が経口から摂れなく退去される方がいた。下半期も入院から退去になるケースが1件ある。ただ、新入居の受け入れを早める事で稼働率の大きな低下には繋がらなく97.5%の稼働率が維持できた。しかし昨年の97.6%の稼働率より0.1%低下してしまう。</p> <p>職員関係では休職や退職等で職員数が3名少ない状況であったが、事務職員がユニットに入り、食事（副食）を外部発注する業務改革を行う事で何とか普段の業務を継続し行うことができた。ただ、代休消化ができなく、その分職員の疲弊があったと思われる。</p> <p>地域貢献に関しては、3年度よりは個別支援や全体行事での外出と外食ができたと思われる。ただ、町内会の活動は中止されたので地域との関りについては前年度と同様となる。運営推進会議についても、昨年同様紙面開催とさせて頂く。ただ、事業所の活動等に関しては、情報誌の回覧や送付などで確認して頂けたと思う。</p> <p>利用者に関しては、高齢化が進み定期受診以外に急遽受診する事が多々あり月の半数以上が受診に費やされる状況であった。通院先によっては1日いっぱい受診となり、その分、予定していた利用者への支援ができなくなったり、翌日以降になることが見られた。</p> <p>研修に関しては、感染症・拘束/虐待防止を定期的に行うことができたが、やはり業務に追われることで声のトーンが大きくなるなど確認されたので、今後もこの部分に関しては研修回数を増やしたり、慢性化する前に助言を継続する必要性を感じた。</p>
利用者サービス	<p><b>利用状況</b></p> <p>令和4年度の平均利用者数は17.5人と昨年より0.1人減少される。上半期・下半期とも入院による退去が確認されたが、早期新入居の受け入れを行う事で大きな低下には繋がらなかった。利用者の状況としては99歳を筆頭に90歳代が10名と半数以上の方が90歳代となっている。生活内での活動も少なくなり逆に急遽の受診頻度の増加や身体介助必要な方が増加している。介護度については要介護3以上の方が14名となり、その内2名の方が全介助必要な方と、利用者の方の高齢化・重介護者が増加している。</p> <p><b>健康管理</b></p> <p>毎日のバイタル測定や状態観察、24時間ソートの活用などで少しの変化を見逃さず体調管理と変化への早期受診対応にて健康管理に努めてきたが、高齢化による体調不良や緊急受診する事も多かった。昨年に続き今年度も転倒事故が多く、その内、圧迫骨折された方が1件確認された。また、今まであまり確認されなかった脳神経や胆石・胆のうなどに伴う受診と入院も確認される。高齢になるにつれ自覚症状が前面に出ない事もあるので、今後いっそうの状態把握の必要性を感じた。今年度は5月後半から6月後半までの約1ヶ月間コロナ感染からクラスターに発展してしまう。事前のコロナへの準備の甘さや感染力の早さなどを体感できたので今後の研修やコロナなどの感染症の発生に活かしたいと思う。</p> <p><b>給食</b></p> <p>食事提供委員会が中心となり献立を作成・提供してきたが、職員の人員不足や受診頻度の多さから2月より副食のみ外部発注とさせて頂く。ただ、毎日の米飯とみそ汁やお誕生日・行事食は今まで通り職員側で作って提供する事となる。外部発注しても咀嚼や嚥下低下に伴う形態変更に関しては、その日の状態に応じ都度食材をミサーにかけ提供したり、嚥下食必要な方には予めペースト食で外部発注している。</p> <p><b>行事</b></p> <p>コロナ禍でも、規模を縮小しながらもコロナ禍前に施行してきた季節行事を中止することなく提供を行えた。その他にも、地域の感染状況に応じて個別支援でのドライブや外食、利用者数人で人混みを避けた近隣のドライブと外食を施行する事ができた。行事での家族交流や地域行事開催も無かったので、今後飲食以外にマスク着用しての視覚や聴覚で楽しめる家族との行事検討が必要と感じた。</p>
事務管理	<p><b>事務</b></p> <p>職員管理・請求業務・保険者との連絡調整やケアプラン作成など、遅滞なく行えることができた。</p> <p><b>施設整備</b></p> <p>4年度は、大きな出費は無く経年劣化に伴う購入と修理がある。日常的に使用している洗濯機・ボイラーの修理と、浴室換気扇と居室電気の購入がある。また、事業所車両の車検がある。その中で修理費が大きくなってしまった。</p> <p><b>研修</b></p> <p>感染防止・拘束廃止と虐待防止への事業所内研修は定期的開催する事ができた。外部研修については2月に白老町にて開催された高齢者虐待防止に関する研修に参加ができる。ただ、法人研修については数回参加と職員の人員不足から中々出席させることができなかった。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員人員に関しては、少ない人員でも業務改革や互いに支え合う事で何とか今年度を終えることができた。ただ、代休の残数があり疲弊されていると思う。今後は職員が復帰される予定なので、まずは代休消化に努め対応行う。</li> <li>・業務改革として食事を外部発注することで、今まで食事作りしていた時間を環境整備や室内レクの開催増加などに回す等のメリットもある。ただ、空き時間を職員の都合に活用することの無い様に注意が必要である。</li> <li>・職員間の関係性やハラスメントに対し、今後も面談など行い働きやすい環境を提供していく。</li> <li>・利用者の高齢化に伴い、今後入れ替わりが激しくなる可能性も考えられるので、待機利用者の確保を継続する。</li> <li>・感染症や拘束と虐待防止に関わる研修と対策を継続。</li> </ul>

令和4年度 寿幸園（短期舎）事業報告書【概要】

事業報告	<p>1. 令和4年度は、寿幸園が白老町から施設の無償譲渡を受け、実質的な設置者として天寿会が事業運営を開始した初年度となった。その中で課題であった設備関係の老朽化対策として、白老町の補助金2千万円を活用し、特別浴槽・ボイラー（2基）・厨房機材等の更新を図った。運営状況に関しては、10月～12月の間は新型コロナウイルス感染拡大（クラスター）により感染ブロックでの新規入居やショートステイの受け入れが不可となり施設運営に大きな影響が及んだが、最終四半期において入居・ショートステイの稼働も平常化し、年度を通した稼働率は全体で94.8%となり一定程度盛り返した。</p> <p>2. 新型コロナウイルスに関して、前述のとおり10月～12月の間に感染拡大シクラスターが発生、入居者31名、職員20名が感染した。対策については苫小牧保健所と連携を図りながらブロック単位を閉鎖し感染対策に鋭意取り組んだ。感染拡大に対する防止策（予防策）を強化する中で実践値を高め、年末には収束することができた。</p> <p>3. 事故に関し発生件数は56件、うち5件は総合振興局に報告書を提出。1件は金銭紛失事故として警察の捜査を介したが解明に至らず、結果として当該入居者に対して、賠償・和解となった。他の4件は骨折事故として防止策・謝罪等の必要な対応をとってきた。</p>	
利用者状況	入居者状況	<p>1. 令和4年度末時点の入居者数は55名であり、平均介護度3.1、平均年齢85.3才であった。95才以上の入居者は10名おり、最高齢は97才。また平均在所期間は2年4ヶ月であった。</p>
サービス	相談援助	<p>1. 年度当初は相談員1名の欠員あが、採用も叶い施設サービス、短期入所サービスに関しては大きな支障なく利用に係る相談援助を行ってきた。</p> <p>2. 利用者確保に関して、町内外の居宅介護支援事業者と連携し緊急入所（措置入所）を含めて、ショートステイに即時対応することにより、在宅介護の有効なサービスとして、事業運営することができた。</p>
サービス	介護支援	<p>1. 介護職員体制の欠員が9月まで続いたが、シフトの工夫や時間外勤務等で補い、入居者の日常生活には影響を来さないよう対応することが出来た。</p> <p>2. 10月から12月にかけて各ブロックでコロナの感染拡大があり、一時的に職員減となったが、基本的にブロック内の人員で時間外勤務等で対応した。クラスター時には医務室看護職員と連携し、感染拡大防止に対応した。</p>
サービス	健康管理	<p>1. 新型コロナによるクラスター発生時には、苫小牧保健所と連携することで該当ブロック・他の施設内部署に対し感染拡大防止策を適切に指示した。</p> <p>2. 入居者・ショートステイ利用者の体調不良に関しても、迅速に嘱託医、及び主治医と連携を図り症状の悪化防止に努めた。</p>
サービス	機能訓練	<p>1. 6月より個別機能訓練及び集会スペースでの集団体操を再開した。又、新型コロナウイルスが拡大している時期は、集団体操をブロックごとに時間・実施日を分けることにより、集会スペースに多数の入居者が密集することを避ける等の感染拡大防止策を講じた。</p>
サービス	給食	<p>1. 嚥下困難者の増加に対し、管理栄養士による昼食・夕食時のミールラウンドを強化した。特に、昼食時には入居者の嚥下状態を細かく観察することで、食形態の検討につなげた。</p>
サービス	行事	<p>1. 昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染防止対策として屋外行事は中止となり、敬老会、忘年会等の会食を中心とした屋内行事を実施した。</p>
サービス	研修	<p>1. 新型コロナウイルス感染拡大により参集型の研修減少に伴い、外部での研修参加はなかった。身体拘束廃止委員会にて事例検討等の研修を実施した。併せて関係職員を対象に虐待事例を提示した研修を実施し、虐待防止に向けた理解を深めた。</p>
サービス	その他	<p>1. 面会に関しては、応接室での面会の他に、オンライン面会、平屋構造を活かして窓越し・非常口での面会を実施し、可能な範囲で家族交流を図った。</p>

令和4年度 しおさい事業報告書【概要】

<p>総括</p>	<p>【スタッフ】介護サービス包括型として人員配置は世話人4：1、夜間支援体制についても加算Ⅲ（緊急連絡体制による支援）で同様で維持することが出来た。世話人が退職、復帰、怪我のため、生活支援員が世話人業務中心とならざるを得ない環境が長期間続き、サービス管理責任者が生活支援員の業務を担うこととなってしまい、特定の人材に負荷を掛けてしまうこととなった。スタッフの高齢化、補充が大きな課題となっている。またコロナ感染症対策として、入居者様に感染者が出ることなく生活をして頂けたが、入居者様に感染者が出てしまった場合の本体施設への応援、協力体制の確立が課題となった。毎年恒例の管理者代理によるスタッフ面談を行い、働き方、風通しの良い職場づくりを目的に実施、令和4年度は人事考課シート、キャリアラダーシートを導入し、スタッフと一緒に目標を考えながら、支援の在り方を振り返る時間を持つことが出来た。</p> <p>【利用者支援、障害福祉サービスの協力関係】身体障害、知的障害、精神障害の3障害を受け入れるグループホームとなり、入居者様が知的、精神障害をお持ちの方が半数となり、生活支援員、世話人へ関わりについての勉強会、毎月のスタッフ会議、世話人会議の場で、支援について、話し合いを行える場を持つことを継続して実施することが出来た。世話人からも、日々の関わりの中で、小ミーティングを企画したいという声が出てきており、令和5年度より実施していく。当法人のメリットでもあるはずの生活介護との繋がり、短期入所支援や施設入所支援への繋がりが薄く、当法人の生活介護を利用せずに他事業所への利用が多くなっている現状がある。しおさいとして日中活動、グループホームへの見学を実施していくため、当法人の日中活動への提案を行えるよう、障害分野の会議などで発信できる機会を持つていく。</p> <p>【定員の確保】入居者様の健康状態が維持され、しおさいからの移行者はいなく、定員を維持することが出来た。新型コロナウイルス対策のもとであったが、担当者会議、日中活動先との連携、話し合いの場、相談支援事業所との連携、勉強会の実施と具体的なケース検討を行う場面も出てきており、令和5年度については、しおさいをステップアップとして将来方向を検討するケースが出てくることが予想される。管理者代理と共に、これまで実施出来ていなかった関係機関への挨拶回り、グループホーム見学などを実施し、しおさいを改めて知って頂く機会、顔の見える関係作りを目指していく。</p> <p>【防災、事故、防犯対策】継続して防火避難訓練の実施、感染対策でも課題となった同法人内の協力体制を含めた事業継続計画の作成を次年度に進めていくこととする。重度化、高齢化していく利用者様への夜間支援体制については、課題が残っており、しおさいという場所で長く生活をして頂くことを考えるのであれば、今後も検討を行っていく必要がある。</p> <p>【職員研修、スキルアップ】スタッフ会議、世話人会議、障害合同研修、チームカアップM、障害分野合同での虐待、事故、感染防止委員会へ参加し、しおさいにて表現する場面を持つことが出来た。</p>
<p>利用</p>	<p>相 談</p> <p>新型コロナウイルス対策の関係もあり、在宅復帰、他機関への移行についてはケースとしては少なく、現状を維持する形となった。今後、自身の生活を見直していく機会、在宅復帰への移行確認などを行い、しおさいがステップアップの場として機能出来るよう、入居者様と一緒に見学、体験の場を提案、実施し、支援を行っていく。利用者の個別支援計画に基づき支援を継続。身体、知的、精神障害と3障害を受け入れているグループホームとして改めて利用者ニーズ、アセスメントの捉え方の再確認の場を設け、個別支援計画の充実を図ってきた。今後も管理者代理、サービス管理責任者、生活支援員、世話人と連携体制を持ち、充実を図っていく。</p>
<p>サ</p>	<p>生活支援</p> <p>3障害の受入を行っており、改めて支援のあり方の確認、声掛け、日頃の生活スタイルの把握など基本に立ち返るために勉強会を昨年に引き続き実施。世話人同士の交流の場を設け、より利用者様に対する支援を考える場としてスタッフ会議以外の世話人会議の場を設け、ボトムアップの場を作り、業務改善に取り組んだ。</p> <p>世話人の欠員が出てしまい、生活支援員の配置を変更し、世話人を主とした働き方に変更とした特定の人材に負荷がかかる事態となってしまい、内部投与を視野に入れた人材の育成、教育を行い、次世代のサービス管理責任者の育成に繋げていくことが出来るよう、本体施設と協力体制を持ち、進めていく必要がある。</p>
<p>ビ</p>	<p>健康管理</p> <p>生活支援員、世話人による日常的健康チェックや早期対応による健康管理の把握に努め、適時受診介助などを行ってきた。また、感染症予防としてインフルエンザワクチン接種、新型コロナウイルス勉強会、マニュアルの更新、手指消毒振り回りの場を設け、リスク管理の意識向上にも努めた。障害の重度化、高齢化により受診の頻度の増加、転倒事故などによる緊急受診対応などを実施。今後も長くしおさいを利用して頂くと考えるのであれば、夜間の見守り体制に関しても見直しを行っていく必要がある。</p>
<p>等</p>	<p>給 食</p> <p>利用者の嗜好や栄養面に配慮した献立を行い食事の提供に努めてきた。世話人同士のスキルアップ、食への見直しの機会として管理栄養士による塩分指導、勉強会の機会、利用者様、世話人との協議の場を持ち、しおさいの『食』を今一度、振り返る時間を持った。次年度もしおさいの売りである食に関しての勉強会の実施、家庭の味を大切にしながら、食事提供を行います。</p>
<p></p>	<p>余暇支援</p> <p>例年通りの夏祭りや忘年会の開催とは行かなかったが、住まいの場、感染対策を考慮しながら、利用者様と共に考えながら実施した。当法人のみの利用ではなく、他事業所企画のイベントもあり、その都度、連携、リスクの確認を行いながら、参加して頂いた。コロナ対策に関しては、障害分野として感染防止委員会を実施していたので他事業所からも実施状況の確認、感染対策について共に考える体制も持つことが出来た。感染症対策の状況を見ながらであるが、個別性、自立支援の視点に立ち返り、地域の社会資源を活用しながら、余暇活動を応援します。近隣住民、地域住民を巻き込んだ参加型イベントなどを企画、実施します。</p>
<p></p>	<p>研修計画等</p> <p>法人研修委員会及び療護部・更生部との合同研修委員会、チームカアップ M にて研修内容を検討し実施してきた。内部の研修会、スーパービジョンが主ではあったが情報収集や各職場への周知を図り、職員の知識・技術の向上に努めてきた。次年度については、外部研修、他事業所見学、世話人交流会などを通し、外部に触れ、しおさいのサービスについて全員で振り返る時間を持ちます。</p>
<p></p>	<p>施設管理等</p> <p>屋根の修繕、バルコニーの撤廃の必要性の確認のため、状況確認、見積もりを取り、管理者へ状況報告を実施。次年度は事業継続計画を作成し、事故防止、防災、防犯対策、感染症対策の強化を図り、利用者へ安全、安心を提供します。</p>

令和4年度 介護老人保健施設そよ風の里事業報告書【概要】

<p>総括</p>	<p>令和4年度は昨年末より療養職員や退職により欠員が増えたこと、年末より新型コロナウイルスによるクラスターの発生などにより退居者もある中で新規の受け入れが思うように実施できず稼働率は9割を割り込みかなりの減収となったことに加えて、職員確保のため紹介会社からの採用が多かったことや契約による職員の確保などで人件費支出も多く経営的にかなり厳しい状況となった。</p> <p>新型コロナウイルス感染に関しては、5月、2月と罹患した職員や濃厚接触職員なども確認され対策を強化していたが、上述のように昨年末から1月末まで4階においてクラスターが発生し入居者18名、職員5名が罹患し苫小牧保健所へ報告する事態となった。罹患により入院となった入居者は1名だけで1週間程度で退院となり最悪の事態は避けることが出来た。</p> <p>入居者サービスにおいては、昨年度より新型コロナウイルス感染防止のため外出行事を取りやめていたが、職員の減員やクラスターの発生などでユニット行事の回数も増やすことが出来なかった。</p>	
<p>利用者サービス等</p>	<p>利用状況</p>	<p>ここ数年は97%前後で推移してきたものの、今年度の稼働率は人員不足やクラスター等の影響により89.8%とかなり低下している。短期入所療養介護事業については、入居を優先対応につき稼働実績はなし。</p>
<p>相談</p>	<p>他の医療機関や法人内の他事業所からの利用相談はあったものの、職員の欠員により新入居に繋げることが困難な状況にあった。又、新型コロナウイルス感染拡大において制限緩和を行うことができず、面会室における面会に留まったが、電話連絡や書面等の手段を通じ概ね家族の理解を得ることが出来た。</p>	
<p>介護</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響から外出行事の企画が出来なくなったことから、ユニット内でのレク（食事レク等）を実施したが人員不足回数も少なく、楽しめる機会は多くはなかった。行事時の写真等を家族に提供するサービスも人員不足により出来なかった。</p>	
<p>健康管理</p>	<p>入居者の健康状態として新型コロナウイルス、インフルエンザに関してはワクチン接種を推進し、新型コロナウイルスに対しては、感染状況に応じて職員・入居者に対して抗原検査などを実施し予防に努めていたが、新型コロナウイルス感染の発症が確認され、発熱等の症状を呈する入居者も出たが、クラスターとなった期間以外は比較的落ち着いた。新型コロナウイルス感染を除いて入居者の体調不調時には、都度、適切・迅速に対応しており、必要に応じて他医療機関に繋げることが出来た。</p>	
<p>訓練</p>	<p>訓練に関しては、作業・言語訓練共に新型コロナウイルス感染の影響があり、毎月に参加状況に変動があった。言語訓練についても担当者の退職があったが、クラスターによる訓練休止もあり大きく影響することはなかった。</p>	
<p>給食</p>	<p>聞き取りや給食運営会議等により、概ね入居者の嗜好に合わせた献立を実施することが出来た。また、行事食、食事レク（ラーメンの提供、デザートバイキング等）、選択食などにより食生活に変化をつけることが出来た。</p>	
<p>庶務</p>	<p>国保連等の請求事務に関しては概ね滞りなく行うことが出来た。介護療養型老健として経管栄養者を15%(12名)以上確保しなければならない。現在入居者数が少なく収益も下がっている為、利用者の確保及び取得可能な加算を確実に請求していく。</p>	
<p>行事クラブ</p>	<p>生け花クラブに4加入いるが、新型コロナウイルス感染ためクラブ活動休止となっている。</p>	
<p>研修計画等</p>	<p>そよ風の里としての研修計画は未策定であるが、法人研修へ6職員が参加している。</p>	
<p>施設管理等</p>	<p>新棟設備に関しては事業計画としていた各ユニットの配膳カートを購入している。また、新規相談員用、3階ユニットのパソコンの入替により新たに購入している。次年度の予算要望予定だったが、故障を繰り返していたため、車椅子用体重計を前倒して購入している。</p>	

## 令和4年度 診療所事業報告書（概要）

総 括	<p>診療所事業については、当診療所が地域から期待される医療ニーズを踏まえ、慢性疾患を主病とした地域住民への医療提供と法人施設のご利用者様及び法人勤務職員に対する医療提供や健康管理を主として事業運営を継続してきた。</p> <p>収入については、法人内の施設利用者に対する収入はある程度確保出来ているが、一般外来患者に関しては年々減少基調にあり診療所拠点区分単体での運営は依然として厳しい経営状況にあるものの、昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大による一般外来患者及び施設利用者、職員への新型コロナワクチン接種により増収が図られた。</p> <p>新型コロナウイルス対策として令和3年から個別接種実施施設として、苫小牧医師会を通じて北海道と委託契約を締結。また、白老町からの依頼を受け集団接種実施施設として一般外来患者や法人内施設利用者や職員を対象に新型コロナウイルス感染のワクチン接種に努めてきた。但し、次年度からは感染症としての取り扱いが2類相当から5類へ引き下げられることから、今後も国の動向を踏まえつつ白老町など関係機関と連携し個別接種・集団接種への協力を行っていく必要がある。</p> <p>事業概要としては、以下の内容の事業を実施している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域住民に対して主に慢性疾患等の診療を提供する。</li> <li>2. 施設入所利用者様に対して健康管理・健康診断を提供する。</li> <li>3. 法人職員に対し健康管理を提供する。</li> <li>4. 地域住民・職員・施設利用者に対し、各種ワクチンや予防接種を提供する。</li> <li>5. 学校健診を受託する。</li> </ol>	
医 療 サ ー ビ ス 等	地域住民	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 昨年同様、契約による「特定健診」、「後期高齢者健康診査」は、新型コロナウイルス感染の影響を受け、「特定検診」「後期高齢者健康診断」は予定件数に達することが出来なかった。</li> <li>2. 在宅療養指導については対象患者が減ったことで予定数を下回る結果となった。</li> <li>3. 町内だけでなく登別・室蘭・苫小牧の協力医療機関とも連携し、緊急時支援体制の確保を図った。</li> <li>4. 肺炎球菌は予定を下回る結果となったが、インフルエンザは予定件数の2倍以上とっている。</li> <li>5. 白老町内の学校検診へ協力している。(白老町立虎杖小学校・竹浦小学校) 但しピロリ菌支援事業は中止している。</li> </ol>
	施設利用者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチン接種は、各種ワクチンを確保した上でほぼ予定数以上の実施ができた。</li> <li>2. 登別・室蘭・苫小牧の協力医療機関と連携し、緊急時支援体制を確保してきた。</li> <li>3. 定期健康診断と診療を実施した。</li> </ol>
	人 員	人員配置は、医療法・医師法等を遵守した配置である。 医師 2名 薬剤師・看護師・レントゲン技師・臨床検査技師・薬局助手 各1名 医療事務 2名
	医療器具	必要最小限の機器で対応し、設置機器以外については委託業者に依頼している。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心電図装置</li> <li>2. 超音波画像診断装置</li> <li>3. 尿検査器</li> <li>4. レントゲン撮影装置（回診用X線装置を含む）</li> <li>5. 針治療器</li> </ol>
	施設管理等	特になし。

## 令和4年度 天寿会介護福祉士実務者研修通信科事業報告書【概要】

<p>総括</p>	<p>令和4年度介護福祉士国家資格の合格率については、R4年度卒業生及び実務経験が不足して いて本年度に受験した者を含む、無資格者3名中3名合格(100%)、訪問介護員3級修了者1 名中1名合格(100%)、初任者研修修了者1名中1名合格(100%)となり、全体の合格率は 6名中6名合格(100%)となった。尚、令和1年度卒、訪問介護員2級修了者1名が受験を継 続しているが不合格となった。</p> <p>本講座卒業生について、無資格者・初任者研修修了者・訪問介護員3級修了者の合格率は退職 者・受験しない者を除くと100%(1回目での合格率:86%)と高水準を維持しているが、訪問 介護員2級修了者の合格率は71%で、複数回受験が多くみられることから、効果的な教育方法、 卒後の受験対策等について検討の必要性が考えられる。</p>
<p>利用者サービス等</p>	<p>令和4年6月開講通常コース3名、9月開講通常コース2名、計5名の受講(1 クラス5名3回開講 計15名の定員に対し)受講率33.3%、前年比20ポイント プラスとなった。</p> <p>国家資格受験要件の実務経験を満たした者の他、要件を満たさないものの、就労・ 学習意欲の高まりから受講した者がおり、増加の要因となった。</p> <p>令和2年度から、受講生の利便性の向上のためWEB学習システムを導入した が、受講生からは、場所を選ばず学習できることや、繰り返し問題を解くことで知識 を習得しやすいと好評を得た。また、法人ホームページ内に受講生専用ホームペー ジを開設し、情報発信、通信学習支援、介護福祉士国家試験受験支援を行った。ICT 活用を進めたことで、事務負担の軽減を図ることもできた。コロナ禍において通信課 題のやり取りがないことから、感染対策にも繋がった。</p> <p>教育教材については、リトルアンQCPRを活用したことで、タブレット端末を使 用して状況の確認ができることで、より質の高い技術を習得できるトレーニングを 実施することができ受講生からも好評を得た。年度末には、地域内での特定外国人採用 の動きや、より実践的な演習が行えるようモデル人形の整備を行った。</p> <p>教員の質の向上については、新型コロナウイルスのまん延により研修派遣への実施 に至らなかった。</p>
<p>申請手続き等 事務</p>	<p>第5条報告を適切に実施するとともに、介護福祉士実務者養成カリキュラムの変 更・WEB学習システムの導入に伴うテキスト・カリキュラム変更に伴う必要な手続 きを実施した。</p> <p>専門実践教育訓練給付金指定講座運営については、昨年度の合格率の低下により要 件を満たさず更新手続きを行うことができなかった。</p>
<p>施設管理等</p>	<p>新型コロナウイルスの感染予防のため、スクーリングの開催にあたっては、感染予 防に関する協力の要請・事前の体調確認を実施し、講座開始前の検温・体調確認、マ スクの着用、手指消毒、アクリルパーテーションの設置、換気、一定の距離を保てる ようスペースを確保し、教育方法についても接触を可能な限り最小限とするなど工夫 して実施した。</p> <p>通信科備品管理、消耗備品の在庫管理・補充、研修室の整理等適切な施設・備品 管理に努めた。</p>